



90年10月25日

No. 85

東京都腎臓病患者連絡協議会（東腎協）

事務局・〒161 東京都 [redacted]

郵便振替口座 [redacted]

電話・FAX [redacted]

昭和四十一年八月七日第三種郵便物認可
 SSKA通巻一七四〇号
 一九九〇年十月二十一日発行
 毎月六回発行
 日発行



え・大森 輝秋

●おまな記事●

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| ◎都知事に災害対策など要望…………… 3 | ◎私の雑記帳 その1……………10 |
| ◎生きがいを求めて（社会復帰）…………… 4 | ◎会員さん訪問〈39〉—ノ清明さん……………12 |
| ◎第25回幹事会開く…………… 7 | ◎東腎協学習交流会……………14 |
| ◎医学 ニューススポット…………… 8 | ◎趣味のグループ紹介(3)約り……………17 |

十五年前から透析に

自己紹介をします。

三十八年前十五歳の時、急性腎炎からネフローゼになり、それ以後尿蛋白、頭痛、高血圧(一八〇/九〇)と体の疲れが年中取れず、それでも夜勤の仕事を二十数年勤めた十五年前から透析に入りました。

透析を始めてからは頭痛も疲れもなくなり、血圧も低くすぎる位になりました。相模原市に住んでいます。病院が町田市なので東腎協にかかわり常任幹事になり三年目の新人です。

十三年前、骨折。それが治る一週間前、バイクでリハビリ中オートバイに外側から直前を左折され、その後輪に接触転倒してまたヒビが入り、安静二カ月の診断が出ました。が、出社すると言った手前すこし痛みがあったのを一週間働きの出したため足が外側に変形してしまいました。今年になっ



リレー・エッセイ

透析患者の一番大事な食欲

常任幹事 高橋 政時



てその変形が酷くなり痛み出し骨粗鬆症と診断され、内側の骨を一センチ短くして変形を治しました。透析と年も関係して傷口と骨の付が悪く入院三カ月、会社を四カ月、東腎協を半年も休んでしまいました。多くの方に迷惑をかけてしまいました。そのようなわけで、肉体的にも精神的にもまだ立ちなおれていませんが、九月から東腎協に出られるようになります。ベースに戻れると思います。

一番大事な欲は食欲

入院中に思ったのですが、身体がきついからと寝てばかりいたのでは筋肉がどんどん落ちて疲れも取れずスタミナもつきません。使われずどんどん退化していくのを実感しました。

入院中始めた手と足のストレッチを三十分、毎日はきついで日曜日だけでもこれからも続けようと思っています。病気になるたり年をとったりすると欲がなくなりますが、これは寝たきり老人の兆候で良くないことです。

欲にもいろいろありますが、透析患者の一番大事な欲は食欲だと思います。これさえあれば、他の

欲は自然とついてきます。欲と友人は多い程人生充実します。

私たちの願ひである医療と生活を守る事が昭和五十八年(一九八二年)の福祉見直しから毎年厳しさを増してきています。景気が悪くなって税収が少なくなれば真先に医療費に手が付けられそうです。透析に導入しようとした件数払いを老人医療に向けてきました。団結のない弱い者からは獲得した権利すら犯されます。

獲得した権利も守ろう

われわれの団結と請願で十数年もかかったJRR内部障害者の割引も実現しました。大いに利用したものです。また、有料道路通行料金割引に対する内部障害者への適用拡大はJRRと同時にありませんでしたが、これからも請願し、早期に実現したいものです。新しい請願も大事ですが、獲得した権利を守ることももっと大事なことで難しいことです。

仲間と連帯感を持つためにも各病院の友の会で行う交流会、レクリエーションには積極的に参加してこれからの私たちの医療と生活を守っていきましょう。

都知事に災害対策など要望

タウンミーティング開く

「マイタウン東京、二十一世紀に向けて——東京都長期計画を考える」をテーマにした第六十九回タウンミーティングが全国都市会館で八月十六日に開かれ、東腎協から泉山会長が出席しました。タウンミーティングは知事と都民と

の懇談会で都側は鈴木都知事、各局長など十五人、住民側は各区関係局からの推薦者、百二十五人が出席しました。質疑に先立ち東京都長期計画懇談会「中間のまとめ」の概要説明があり、その後、五代利矢子（評論家）さんの司会

で約二時間の質疑が行われました。

発言は挙手による指名によって行われ二十一人が発言しました。泉山会長は防災関係のときにやると指名を受け①災害時における透析医療対策②腎臓病の予防と早期発見・早期治療の対策③腎移植の普及と対策、特に都立病院での腎臓移植の実施を要望しました。

これに対して知事の回答は①災害に対しては「重要な点ですから良く検討させていただきます」②

腎バンクに登録を

車内広告でよびかけ

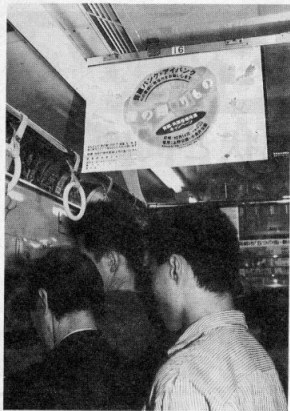
今年度の東京都腎不全対策費のなかで新規に腎移植推進の広報費として、〇〇万円が予算措置され、腎臓バンク・アイバンクへの登録のご協力を呼び掛ける車内なぐりポスター（写真）が都内のJRなどに掲載されました。

このポスターがひとりでも多くの人たちの目にとまり、多くの方が腎バンクに登録され、移植を待つ人たちの光明になることを期待しています。

都立病院での腎移植の実施については「都立病院での腎臓移植についても検討させていただきます」ということでありました。知事答弁では全体的に「検討」にとどまり具体的内容については乏しかったが、災害対策については「重要な点」とつけ加えるだけ他の回答よりよいのではと考えられます。

基本的な計画については発言では「マイタウンとは誰が住むのか、なんのための長期計画なのか自問自答に考えたが、結論が出ない。生きていて良かったと思う社会をつくるのが政治の理念だ」と思うが、もう少し温かみのある計画にしてほしい」（練馬区・視覚障害者女性）や福祉・医療機関の質疑では「在宅ケアや地域ケアが重視されているが、住宅問題をどうするか。地域ケアも地域住民の参加がないと出来ない」（品川区・男性）などの指摘がありました。

懇談会終了後、泉山会長は衛生局長と話す機会があり、局長は①災害対策については交通・通行対策も重要だ②今年のキャンペーンは多摩でもやりますのでよろしくお願ひしますということでありま



生きがいを求めて

社会復帰の現状と問題点

職業的自立について強い意志を

東京都労働経済局職業安定部

職業課長補佐 鈴木克巳

身体に障害を受けられた方々の雇用を促進することは、国際障害者年（一九八一年）のテーマである「完全参加と平等」を実現する一手段として、労働行政の重要な課題となっており、

このため、東京都では、国の施策を踏まえるとともに、独自の立場からも、一九八二年に「国際障害者年東京都行動計画」を策定し、その実施を通じて、雇用者数の増加に努めてまいりました。

現在多くの障害者の方々が元氣

東京都の民間企業における障害者雇用数の推移

年	数	障害者雇用数
60年		56,468
61年		56,985
62年		57,509
63年		60,622
元年		62,558

(各年6月1日現在)

に働いている第三セクター方式による「重度障害者多数雇用企業」の設立・育成も、この計画の具体化にはかゝりません。

このような施策は、「障害者の雇用の促進等に関する法律」が基礎となっており、最も現実的かつ実行ある施策が、同法による雇用率制度の運用であり、また公共職業安定所における職業紹介であることは間違いありません。

このうち、職業紹介体制については、現在、都内各公共職業安定所には「特別援助部門」を設置するとともに、「専門官」を配置して、相談・紹介内容の充実強化を図っております。

職業相談の実際では、働く意思を有する方について、障害の部位あるいは障害の内容による身体的不全と職業能力との関係を十分に把握させていただき、可能な限り、その方の希望に適合する職業に就けるよう最大の努力を傾注いたし

ております。

もちろん、公共職業安定所は、その立場から、求人者の方々の雇用条件にも適合する方を紹介しなければならぬ要請がありますので、障害者の方々の職業紹介が、健常者の方のそれに比べ、かなり現実的な制約下におかれておりますことは事実であります。

しかし、公共職業安定所が行う企業に対する雇用率達成指導はもとより、障害者雇用に対する企業理解の浸透をはじめ、昨今の労働市場における職業構造や就業構造の多様化が、障害者の方々の職域を徐々に拡大しつつあることもまた事実であります。

東京都といたしましては、今後とも都内各公共職業安定所と一体となつて、身体に障害を受けられた方々の雇用の促進を「職場としての企業」の責任と理解の中で進めていくこととしております。

障害者の方々には、どうか職業的自立について、強い意思をお持ちになり、就職に対する自動努力をお願いするとともに、お近くの公共職業安定所をお訪ねになり、職業相談をお受けになることをお勧めいたします。

不利な状況はね返す働く個人の意思・意欲

ハローワーク(職安)に聞く

働く意思のある透析中の人(以下透析者という)が、社会復帰することは望ましいことです。とはいえ、時間的に制約のある透析者にとっては、そう簡単なことではありません。九月は障害者雇用促進月間、全国的にいろいろな行事が繰り広げられました。障害者雇用促進法により、法定雇用率が一・六%と定められていますが、実際は一・三三%(平成元年六月調査)に過ぎません。都の職安(ハローワーク)でも努力を傾けてはいるのですが、腎機能障害者の就職率はそれでも三〇%という状況です。(まとめ小脇正史)

整備された就職紹介窓口

東腎協の本年度の活動方針には「特別援助部門」を設置して専門官が配置されています。都は行政を促進すること」が要望事項として取り上げられ、スローガンにも「働ける腎臓病患者者に社会復帰の

道！」があります。都の十八の職安全部に就職紹介の窓口として「特別援助部門」を設置して専門官が配置されています。都は行政面でも、就職のチャンスから見ても、全国的に見て恵まれています。が、それでも充分とはいえません。

池袋、飯田橋各職安の担当官は最近の事情をお聞きして、

①週三回の透析は条件として相当制約を受ける。

②透析は午後四時からというのが多く、それ以前は少ない。

③事業所の要求が、勤めはじめに比べて段

々普通なみになり、透析者の負担が大きくなる傾向がある。外見が健常者と同じで表面的には区別できないせいで、

④中小の組合健保の医療費の負担が大きい。

働くことに重大な意味

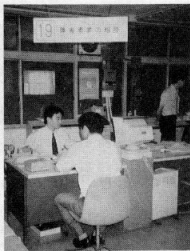
この点から、法的雇用率には無関係なアルバイトが案外多いのではないかと推測されます。透析者にとっては時間的に融通が利く、雇用者には近頃の求人難の解消に一役買う、など両者にメリットがあるからです。しかし、実際はまったく掴めておりません。透

析者は「働けるところがあればタダでもいいから働け」という意見があります。働くことにより体力がつき、それに比べて生き甲斐も生まれ、生きる意欲が強まるからだといわれています。これはまったく正しいことです。透析者、なかでも働く意思を持つもの、働ける体力のあるものには、働くことがどんなに重大な意味を持っているかということなのです。

厳しい求人側の要求

求人側から見ると、透析者には余りに制約が大きすぎるがゆえに、働く意欲をよけいに持つことを要求する傾向があるのは否めませんし、できれば特殊技能を求められるものもある程度止むをえないことかもしれません。しかし、このような求人側の要求を呑み込んでいけば、透析者の職域は狭まる一方です。働く意思を持つ透析者に対する理解と認識を深めるような社会的な働き掛けが団体運動に求められると同時に、行政当局の求人側に対する指導が欠かせぬものとなるわけです。

飯田橋職安でうかがった求人ケースで、輸入洋品の営業関係に透



ハローワーク池袋、障害者窓口

析者を、というのがありました。これは以前の採用者の中に透析者がいて、面接して非常に印象が良かったからだということ。それな例であるとはいえず、このことから二つの事情が教訓として取り出せます。ひとつは求人側の理解と積極的な採用態度が必要だということ、今ひとつは求職側の意欲の問題です。

社会復帰の実例

ここで社会復帰の一例として、CAPD(持続歩行可能腹膜透析)使用者のケースを取り上げておきますが、社会復帰のためには血液透析がいいか、CAPDがいいかと



いう選択の問題としてではなく、腎不全患者の社会復帰の共通の条件を浮かび上げられるものとして扱いました。

読売新聞社厚生部主任の落合信行さん(四十八歳)は昭和六十三年十月からCAPDの生活が始まりました。それから二年たった現在、朝九時半から夕方五時半までの勤務時間を人並にこなしています。落合さんは二十八歳の時、のう胞腎にかりり以後治療につとめてきましたが、二年前の六月腎盂炎を起こし、東海大東京病院に二週間入院しました。それが引き金となり腎機能は急激に悪化し、その年の十月には再び入院、カテーテル手術をしてCAPDを導入し

わずかつづ増えている

腎機能障害者の就職数

東腎協の要請行動の積み重ねと行政当局の努力により、わずかつづであるが、職安(ハローワーク)を通じての透析者の就職数が増加しています。昨年度は腎機能障害者の五十七人(重度五十五人)が就職に結びついています。

ました。

十八年間にわたって落合さんを見てきた同大の松下一男先生は、落合さんをよく理解してくれて、①意見がしっかりとっていて自己管理ができる②勤めを続けている意思がある、ということからCAPDを勧め、CAPDの生活を描いたビデオを貸してくれました。落合さんは迷うことなくCAPDを選択しました。体に馴染むまで二年はかかるといわれていましたが、その通りでした。

透析液は一日四回交換しますが、そのうち一回は社内の診療所

まとめ：個人の努力を積み上げる

東腎協を先頭に、関係団体は障害者の社会復帰の必要性を社会に訴え続ける一方、都など行政当局も求職側に理解と協力を求めています。その努力は認められてしかるべきでしょう。しかし、状況はそれだけで好転するものではありません。前述の例に見られるように、個人の努力と職場の理解が伴わなければならない。

職を求めた個々の透析者を含む身障者が示した意欲によって、求人側の理解と協力の姿勢が生まれ

健康相談室を使って約四十分かけて行います。毎週木曜日は休み、月二回は病院にゆき検査を受けます。これは隔週の週休二回と年次休暇を利用します。職場でも落合さんの体調をみて、定常業務につかませんでした。落合さんは体に自信が持てるようになってきました。様子を見てそろそろ定常業務に復帰しようかと思うようになってきたこのごろです。

落合さんはいいます。「社会復帰の条件は本人の意思と、職場の環境に帰着しますね。」

ます。このようなケースが数を増していくことによって、個人から社会全体へとレベルアップして行くこと……これがもつとも望ましいことであり、個人個人の身障者の持つべき心構えといえないでしょうか。

「身障者の自助努力」が叫ばれています。当然のことです。ただその「自助努力」はあくまで自己の意思によるものでなければならぬことを、強調しておきたいと思えます。

私たちの望む福祉を求めて

第二十五回幹事会開く

第二十五回東腎協幹事会は、九月十六日(日)新宿戸山サンライズで開催されました。

木村常任幹事の司会で始まり、泉山会長の挨拶では、初めて腎移植推進キャンペーンの中づり広告に予算がつき、私達が望む福祉、医療行政が進められるように働きかけていると話されました。

川島常任幹事を議長に選出し、森事務局長から平成二年度上期活動報告、中田会計から上期会計報告があり、以上一括して挙手で承認されました。



森事務局長の上期報告

討議事項に入り、森事務局長から①腎移植推進キャンペーンについて説明があり、今年には多摩地区にも東京都の予算がつき、上野公園と小金井公園の二カ所で実施する事が拍手で承認されました。

木村常任幹事から②腎臓病を考える郡民の集いについて説明があり、十一月に新宿住友ホールで例年どおり開催される事が承認されました。

食事後、高橋政時常任幹事から③全腎協・JPC署名募金、一ノ清副会長から④全腎協二十周年記念事業、高橋勇二郎副会長から⑤ブロック単位患者交流会について説明があり討議後、拍手で承認され、竹田事務局次長から閉会の挨拶があり、無事終了しました。

今年の幹事会は参加者も過去最高の三十九患者会から八十二人が出席し、盛況のなか開催されましたが、これは東腎協の各委員会の日常の活動が、八十一患者会(去年七十四)と言う数字で反映された成果でした。(東野・記)

やさしい障害年金コーナー

シリーズ②

病状が悪化したとき。障害年金は、増額されるか

Mさん 障害年金のことでお聞きしたいことがあります。

事務局 どうぞ。障害年金のどのようなことですか。

Mさん 私の夫は、現在、透析患者で、厚生年金から旧法の障害年金三級を受給しています。一ヶ月ほど前から、心不全を起こし入院しており、関節の痛みもひどく、寝たきりの状態です。

事務局 それは、お気の毒です。お大事にして下さい。

Mさん そこで伺いたのですが、障害の程度が重くなった場合、障害年金の年金額が増額されると聞いておりますが、その内容について教えてください。

事務局 障害年金は、障害認定日の状態により、一級から三級までの障害年金が支給されます。その後、障害の程度が重く

なると等級が変わりますと、年金額も改定されます。この障害の程度の変化による年金額の改定は、通常、現況届(毎年誕生日月に提出するもの)に添付されている場合の診断書によって社会保険庁長官が職権で行っております。これ以外として、年金受給者が、社会保険庁長官に対して、障害の程度が増進したことによる年金額の改定を請求することが出来ます。

Mさん 具体的には、どのような書類が必要ですか。

事務局 「障害年金額改定請求書」に所定の診断書を添付して請求することになります。

ただし、この請求は、社会保険庁長官の診査を受けた日から一年を経過しないと行なうことは出来ませんので注意して下さい。具体的な年金相談は、事務局又は、社会保険事務所へ。

(承賀)

潮流

夜間の睡眠中に透析治療が
自動腹膜透析 (Automat-

ed Peritoneal Dialysis) システ-

ムの発売が許可され、十月からこ-

のシステムを使った透析治療が行-

えるようになりました。仕事や通-

学で昼間忙しいとい-

う方には、極めて便-

利なシステムとして

注目されそうです。

このシステムは、

サイクラーと呼ばれるコンピュー-

ター制御装置が、透析液を自動的

医学 ニュース スポット

に交換する仕組みです。患者さん
はCAPD (持続性可動的腹膜透
析法) と同様、あらかじめ手術で
カテーテルを腹壁に埋め込んでお
きます。そして夜寝る前にカテー
テルと装置をつなぎ、システムを

セットします。あとは寝ている間
に一時間一サイクルのペースで、
透析液が自動的に交換されます。

米国では透析治療を受ける人が
七、八万人おり、そのうち一割近

くの方がこのAPDシステムで治
療しています。ほとんどの人が一
晩に六回程度、透析液の交換をし

ており、なかなか好評だというこ
とです。

北里大学医学部腎センターの酒
井糾教授によりますと、治療効果
はCAPDを若干上回ります。透

析治療を受けている患者さんで

は、血液中の老廃物の一種である
尿素窒素やクレアチニンの量が多

く、治療ではこれを除くわけです
が、APDではその効率がCAP

Dより一、二割いいそうです。

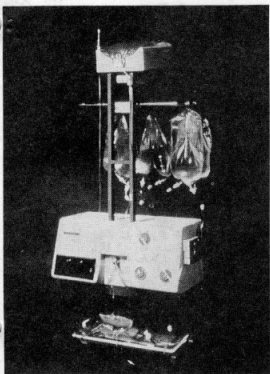
「医学上の治療の質もいいし、
社会復帰つまりクオリティ・オブ

・ライフを考えても断然
いい。装置は静かで睡眠を妨げら
れるということもありませんか

ら、日本でもこれから徐々に増え
ていくのではないだろうか」と
同教授は話しています。

社会復帰に有効システム

睡眠中に自動腹膜透析：APD



ただひとつ問題なのは、装置の
価格が一台約二百万円と非常に高
いこと。米国では病院やメーカー
がリースしており、我が国でも同
じやり方になりそうですが、その
場合、リース代は月々三万円程度
が見込まれます。もう少しメーカ
ーさんに頑張ってもらいたいとい
うのが、患者さんの希望になると
思います。

(木村治之)

十月から発売が許可された
APDシステム

タブーに挑戦、生着向上

血液型不適合の生体腎移植

血液型が違う(不適合)生体腎(じん)移植が東京女子医大などで行われており、好成績をあげています。死体腎移植が少ないわが国にとって腎移植の拡大につながるものであり、普及することを期待したいものです。

輸出を受ける場合、A、B、Oの血液型を合わせることは不可欠です。他人から臓器を提供してもらう場合も、臓器提供者(ドナー)と臓器の移植を受ける患者(レシピエント)の血液型が違っていると、拒絶反応が強くて移植した臓器が生着しないことが多く、タブーになっていました。

東京女子医大腎臓病総合医療センターの太田和夫教授、高橋公太助教らの研究グループは、昨年一月から最近まで、血液型の違う腎移植を二十一例(男性十二例、女性九例)でがけ、そのうち十八例が生着するという好成績をあげています。

従来の移植手術と違う点は、移植前にレシピエントの血液を浄化

する点です。

まず、血漿(けっしょう)交換法で免疫グロブリンを除去して移植後の拒絶反応を未然に防止しようというわけです。この交換は、移植の一週間前に行ないます。

続いて血漿交換法で除去できなかった抗体をさらに除去するため、免疫吸着法を実施します。吸着剤が入った装置に血液を灌流(かんりゅう)させて抗体を除去する方法です。この方法は移植前

に三、四回行ないます。

二十一例の手術例のうち、拒絶反応を示さなかったのが十例ありましたが、その他は軽量の差はあるが拒絶反応を示しました。しかし、いずれのケースも免疫抑制剤などの薬物の投与で危機を切り抜け、移植腎は生着しました。

高橋助教教授は「移植前の抗体処理と術後の免疫抑制法を的確に行なえば、一般の腎移植と変わりない成績になることがはっきりした」と語り、今後はレシピエントの移植前の免疫吸着の回数を減らすことを検討しています。

人工透析を受ける患者の苦痛と

脳死からの移植ふえる

腎臓 五年間に一五二例も

日本移植学会と東京女子医大の太田和夫教授らは、昭和五十九年

から同六十二年までの五年間に全国百三十五施設で実施した腎臓移植の状況を調べたところ、脳死からの腎移植が百五十二例に上っていることが分かった。

この調査では、五年間の死体腎提供者の総数は四百二十九人で提

供腎臓は八百二十六個にのぼった。

これによって移植を受けた患者は七百八十一人だった。

心臓の拍動が停止した状態の心臓死からの腎臓提供よりも、人工呼吸器をつけたまま心臓が拍動している状態の脳死段階での腎臓移植の方が移植への障害が少なく、

それにかかる医療コストを考えると、わが国の腎移植はまだまだ普及させなければなりません。東京女子医大グループが実績をあげている血液型不適合の生体腎移植は、腎移植のチャンスを広げるものであり他の医療機関にも刺激を与え、これまで女子医大以外でも十九例が行われました。

この移植方法の試行錯誤の中から、免疫の仕組みと抗体の働きの基本的な仕組みを解明できる可能性があり、学問的な貢献も大きいと思われまます。研究グループの前進をさらに期待したいものです。

生着率も成績がいい。

太田教授は「脳死者からの腎臓摘出は、医師が勝手にやっているのではなく、提供者の家族の同意を得てしていることであり、年々脳死への理解が増えてきている」と語り、わが国も欧米並みに脳死を個体死と認める考えが増えてきたようだ。

本欄は読売新聞社の協力で作成しました。

私の雑記帳

「かんばしい」

「長い間、お疲れさまでした」

思えば連載三十回、七年半にわたって書き続けてきた「たえこのひとりごと」。この日、その筆者である木村妙子さんを囲んで会長の泉山さんと編集委員会のメンバーで連載終了のささやかな記念パーティーの席。ここは新宿の紀ノ国屋ビルの地下にある居酒屋。

木村妙子さんのこと

私と木村妙子さんとの付き合いももう随分長くなった。初めて会ったのは一九八一年二月五日、全腎協の国会請願の日。実際に話をしたのはその月末で、「会員さん訪問」（東腎協「第36号」）でインタビューした時だった。こんな会

話をしている。

「全腎協の国会請願に初めて参加した感想は。」

木村 一人の力では何もできないが、弱いが力を合わせれば何ができるということを感じます。また、弱いはバラバラではいけないのだと改めて感じました。その他、全国に透析患者がこんなにたくさんいるのかと思うと心強いというか、いつも身の回りには健常者ばかりで疎外感を持つことも多いのですが、励まされるような気分でした。皆、患者会の活動が必要だと思っている人が、こんななにくさんいるのかと……

上田（全腎協）会長がいわれたとおり、十年前は機械がなくて、お金がなくて死ぬ人がたくさんい

たのですが、全腎協、東腎協ができて、初めて身体障害者に認定され、更生医療が適用されるようになり、お金の切れ目が命の切れ目ではなくなりましたね。

東腎協の常任幹事になろうとした動機はなんですか。また、患者運動とは何だと思えますか。

木村 他、病院の情報などを知り、自分を含めて病院の患者に治療環境が少しでもよくなるためには、自分が勉強をしなければ……という気持ちで常任幹事をつとめてみようと思いました。

やっぱり患者は弱い存在。だから黙っていたら政治（行政）は、何もやってくれないので患者会が生活をよくしていくために患者会（運動）があるのではないでしょ

うか。」

その時の印象は、物事に対してよく考え、自分の考えを述べられる芯の強い人だと感じた。

「たえこのひとりごと」の連載は一貫して「一人の力では何もできないが、弱いが力を合わせれば何ができる。弱いはバラバラではいけない」という論理に貫かれていた。そのために患者会が必要なのだ。私は、他県の役員の中にも「たえこのひとりごと」に注目していた人が沢山いたことも知っている。木村さんは、現在も東腎協の数少ない女性役員の中心的なまとめ役として頑張っている一人であり、これからも頑張ってくれるだろう。

金がないと命も削られる

今から思うとうそみたいな話だが、金がなくて人工腎臓にかからない、透析療法が始まった初期の頃は大変な時代があったのだ。

渡辺淳一の小説に「十五歳の失踪」という本がある。私は、「東腎協」第15号（一九七七年一月発行）でこの本を取り上げたが、それに少しふれてみると。

……十五歳の俊次は、学校を早

●昔は、水分制限が厳しくてビールも安心して飲めませんでした。



退してM大学病院に行き透析を受けて戻るはずだったが、病院には行かず失踪してしまつた。物語は、この人工腎臓の少年・堀尾俊次が失踪してから展開される。この小説の背景は一九七〇以前だろう。この頃はまだ全腎協ができていなくて、透析患者は「金の切れ目が命の切れ目」といわれていた時代だった。ある人は、自分の家を売ったり、財産をみんな投げ売ってやつと透析を続け金がなくなつてしまつた時には命の方も切れてしまつた—そういう厳しい時期だった。この物語の俊次は、健康保険の家族で五割負担、一カ月十回治療で十五万円の治療費を払わねばならない。両親は細々と蓄えてきた貯金もほんの僅かになり、退

職金の前借りか家を売るより他に方法がなくなつていた。少年はそのことを知っていた。まだまだ透析技術の劣つていたこの頃、病気の格闘と高額な医療費の両方で頭の中はいっぱいになっていたに違いない。俊次が行方不明になり、周囲の人達はそのことを痛感する。

あと数時間遅かつたらというところで俊次は、再び人工腎臓にかかり小説は終わるのだが、このできごとを通して、いかに一人の人間の生命が大事かがよく理解できる。その人間がどんな状態にあつても生きていくことが最大限保障されなければならぬと思う。この小説を再び読むために近くこの図書館に行き借りのだが、今

読んでみても当時の状況と透析患者の置かれていた状況がよく理解できる。小説の舞台から二十年以上は経っている。俊次が今生きていれば、この年月に起こつた透析医療の進歩、医療費の患者負担の問題、臓器移植の進歩、社会復帰など透析患者の生活向上に思いをあらたにすることだろう。

話は、大いに盛り上がる

アルコールが入ると、やはり話が弾む。みんなもういい気持ちになつていた。「昔は、コップ一杯のビールを飲むのにもたいへんだったねえ。今日はもうジョッキ一杯あけてしまつた」と感懐深そうに泉山さんは言う。「熱さも喉もと過ぎれば忘れる」という諺があるが、今では透析患者がビールをジョッキで飲むのも普通のできごとである。十数年前は水分制限が厳しくてみんな苦労していた。

感懐深そうに泉山さんが「昔は、コップ一杯のビールを飲むのにも」と言つたのは苦しい初期の透析の頃を思い出していたのに違いない。私は、結成以前から東腎協に関わっていたのだが、今でも非透析患者だから泉山さんの思い出

は頭の中ではわかるのだが、感覚としてはやっぱりわからない。ともかく、こうしてあれこれ過去の話や昼間事務所でケンケンカグカグと「東腎協」の編集委員会で論議したが、どうしたらもっといい機関誌ができるかの続きの話、お互いの最近の話題などビールやお酒を水分制限を余り気にしないで飲めるというのでもいいものだ。

この日の午後、事務所での編集委員会では「東腎協」の機関誌の編集方針について大論議した。機関誌を読んでも励まされたという気持ちになればいいんじゃないかな。「全腎協」に載つてもいいような記事が「東腎協」の機関誌に載っている。やっぱり編集方針をはっきりさせなくっちゃ、などいろいろな意見が出たが結論は出なかつた。引き続きみんなで考えることにして次号（この号）の企画、分担を決めた。

その中で「たえこのひとりごと」に変わる連載物にしたのがこの欄で、私が担当することになった。題も勝手に「私の雑記帳」と決めたのだ。木村さんの健闘に負けずに努力していきたい。

会員さん訪問(39)

透析20年、苦しい時代を 患者運動と共に生きて

一ノ清 明さん

「そりゃ、患切れはしましたよ。水飲み場があったらうがいをして、ない所はウーロン茶で喉をうるおしたんで」——この春、全腎協第二十回総会が愛媛県松山で開催された折、香川県琴平・金毘羅宮七百八十五段の石段を登った時の感想を語ります。透析二十年を過ぎた現在、東腎協の副会長、全腎協の運営委員、仕事にと頑張っている一ノ清明さんに聞きました。

——現在の状態はどうですか。

一ノ清 手根管が多少痛い位で他は大丈夫です。この夏休みには中央アルプスの駒ヶ岳にロープウェイでしらび平までいき散策を楽しみましたが、ロープウェイが混んでいて昼近くになってしまい、ガスがかかってきて景色が見えず残念でした。二千六百mまでであるというのは驚異ですね。機会があればまた行きたいです。

透析20年、回数三千回

——透析二十年、透析回数は何回位になりましたか。

一ノ清 透析に入ったのは昭和四十五年（一九七〇年）九月だから。最初の四年間は週二回、三回だったから三千回を超えた位ですね。

透析に入る時、病院で移植を勧められました。長兄が行って症例はどうなっていますか、と聞いた

ら三人やって二人が死んでしまったという返事。長兄は血液型が同じなのは俺だから提供できるのかな、と言っていたそうですが（後から聞いてわかった）。透析病院を紹介してくれなくて、家族が必死で捜してくれました。やっと病院を捜し出し、意識不明になって透析を始めたのでした。

一番苦しかったのは、最初の一年半。機械が悪くて水引きが殆どなく、制限が厳しかった。食事制限が厳しくて前日、ノートに明日の食事の処方を作ってその通りにしなさいと食事の管理ができなかった。同じ頃、若い患者が三人（男女）いましたが、水分制限に負けてしまい、水を飲みたいために食事をしなかつたりカリウム制限をしなかつたりでみんな亡くなってしまいました。一年間耐えられたら今でも生きていられたのだと残念に思います。私は、結婚して間もなく、命が惜しかったからあと

五年、十年生きたいという気持ちが強かったので、厳しい食事制限に耐えられたのだらうと思います。水、カリウム制限、ヘマトクリットをあげること——この三原則をいつも念頭において食事をとっていました。この四年間の食事療法が今でも頭から離れない。現在でもこのどれかがオーバー（減少）したら次の透析まで制限（調整）して元に戻すようにできます。今から考えると「生き抜いた」という感覚が強いですね。

その後の二年半も働ける状態ではなかつたんです。それからクリニクに移って週三回透析になり、機械の効率、技術が進んで薬になり、働けるようにもなりました。

患者運動と生きること

——患者運動に参加するようになったのは。

一ノ清 透析を始めた昭和四十八年（一九七三年）三月、東腎協から病院へ入会してくれませんか、と郵便がきました。朝日新聞で全腎協の結成（一九七一年六月）のことを読んでいたり、よその病院でいっぱい透析をしている人が

患者運動を続けていく事は 生きていくための糧です



いたり、どういう治療、食事管理をしているのか知りたくて東腎協に関わりを持つようになったのが動機ですね。当時は、透析に関する本などなくて情報が本場に不足していました。後はなりゆきですつと役員をしてきました。

働いていなかった四年間は、よく全腎協の上田さん（会長）、勝山さん（副会長）さんらの後をつけて厚生省など交渉にいきました。そんなことをやっているうちに自分も元気になったし、今ある自分を支える原動力にもなったんじゃないかな。

—— 昨年から全腎協の運営委員にもなって忙しいですね。

一ノ清 都道府県単位の患者会と違って難しいですね。ものごととらえ方を常に考えていかなければならないし、また情勢を踏まえて活動していかなければいけないので勉強しなくては……。

—— 仕事は、どんなことを。

一ノ清 兄の経営する運送会社で事務的な仕事をしています。透析のある月水金は九時～十四時まで仕事をして透析に通い、火木は九時～十七時まで、土は九時～十二時までです。朝は七時～七時半

に家を出て車で一時間半かかって職場に着きます。

—— 東腎協は、再来年二十周年を迎えますが、これからの透析患者に伝えたいことは。

一ノ清 二十年も経つと今では「そんなことがあったのか」と簡単に思うだけに終わってしまいましたが、ただ単に苦しい時代があっただけでなく語りつがなければならぬことを残していくのが大事だと思っています。

これからの課題もまだまだあります。今、濾過方式の透析がいいといわれたりしていますが、健康保険がきかないと医者はいいと思う治療も行いません。合併症、糖尿性腎症、手根管などの問題を解決させねばなりません。運動を続けていくことは生きていくための糧です。

淡々と話されるので、「フーン」と聞いているのだが、後から考えてみるとやはり並々ならぬ努力と節制を守り、他の患者のために頑張っている人なんだなあと改めて感じました。これからでも健康に留意されて活躍して下さい。

東腎協学習交流会

患者会活動を活発にするために(Ⅰ)

九月十八日、六十人の病院患者会役員などが参加して東腎協学習交流会が開かれました。活動の活発な病院患者会、役員不足のために活動の停滞している会、新しく会を発足させ意気盛んな会、会の置かれていた状況は様々です。今回の学習会では泉山会長から患者運動・患者会活動の必要性の話が行われ、続いて活動の盛んな会としてあけぼの友の会、岩本美津枝さん、苦勞して会の結成に結びつけた東海病院ひまわり会、渡辺精二さんから発表が行われました。発表後、患者会活動をいかにして活発にするか熱心なデイスカッションが行われました。今号ではまず、泉山会長の話を掲載しました。(まごめ・崇徳)

患者運動と

患者会活動の必要性

東腎協会長 泉山 知威

私たちの願い

患者運動の目的とするところは「医療と生活を守る」、平たく言えば「いのちとくらしを守る」。ところが患者運動の使命ではないかと思えます。それからそれが県とか病院患者会に下りてきた場合には、強くなるわけですが、「経験交流」ですとか「親睦を図る」とか、これも大きな目的だと思いま

す。単なるたとえは親睦交流では、患者運動ということではなくて、普通の趣味のクラブとなら変わらないことになりました。

次になぜ必要なのかという点に移らせてもらいます。ぜひご紹介したいと思ひ一番に書かせてもらったのは、東腎協の初代会長の寺田さんという方おりました。第二回の総会を前にして亡くなられたわけですが、この方が結成

総会で話されている中で、「社会

福祉はその福祉を受けたいと願う者が、希望するようなものではない。そういうような下りがあるのです。中にはそれは身勝手というご批判もあると思いますが、本質的にこれは私たちの願いではないかと思ひます。やはりなぜ患者運動が必要かといえはそういうような私たちの希望を、私たち自身でアップルして実現することだと思ひます。

今、一般的に病氣は感染症から慢性病へといわれておりますが、国民の健康破壊が進んでいる、そういう中で精神的なものであると

か、あるいは公害であるとかいろいろな健康を破壊するような要素もあるということ、有病率がたいへん上がっているということですね。

そのような状況で医療政策はといますと、昭和五十七年に第二臨調の基本答申がでて、その中で個人の自助努力、相互扶助、行政の役割の見直しなどが中心に出ています。また、国民医療費も二十兆円を超えてくるという中で、透析はだいたい推計ですが、一八年間六百万円とすれば十万人として六千億円と二十兆円の三割を使っています。一億一千万ぐらいの国民のうち十万人で三割ですから、やはり非常に大きいわけですね。そのへんでの問題も出てきています。

それから医療政策としては、今、第二次の医療改革に入っています。第一次は健康保険の本人負担の導入、それから老人医療費であるとか、いろいろの制度改革、医療法についても病床規制といいますが、施設、ベット数の規制まで入ってきて、一般医療については二次医療圏を設定し、必要病床数を決めてそれ以上過剰な地域では



活発なディスカッション

とんでもないということ
で陳情や交渉をしまして
認めさせました。やはり
そういうような締めつけ
ということも出てくるわ
けです。それから地方の
市町村では小さな国保で
すと、透析に入った場合
に、医療費がたかさんか
かるから、大きい市に引
っ越して欲しいというこ
とがあります。そのよう
に住居さえ制限されるよ
うな例があります。

しわよせは患者に来る

増やさせない、増やした場合には
保険適用しないとか、量的な締め
つけに入ってきているわけです。

そういう情勢の中で透析の医療
費を見ますと、長い経過ではずー
つと下がってきているわけだと思
ね。古い患者さんはご存じだと思
います。大きく下がった最初の
時期には、たぶん何処の病院や透
析施設でも看護婦さんがぼーんと
減ったと思います。一番節約とい

いますか、合理化しやすい人件費
から切ったという例が多い
ようです。あるいは病院によって
は保険で使えない消耗品が有料に
なったとか、いろいろの報告がた
くさんきました。

そういう中でやはりしわよせと
いうのは患者に来る。保険のレセ
プト診査も厳しくなる。ある地域
では八十前後の方が、透析導入し
たところ、年齢と症状から見て、
透析導入に疑義があるということ
で、レセプトが突き返されました。

看護婦さんが足りない

それと同時にやはり医療施設の
医療スタッフに相当しわよせがい
つていますね。大変忙しい、給料
が安い。看護婦さんが忙しい、忙
しいといっているの、悪くて頼
めない、そういうような状況は皆さ
んたぶん肌で感じているのではな
いかと思います。

それからくるような医療現場で
の問題の解決、あるいはよりよい
透析の環境を求めての病院との協
力。病院と腎友会とが協力して学
習会を開くとか、私たちが長生き
するためにそのような運動が必要
ではないかと思えます。親睦、運
動を通じて医療環境を整備しなが
ら私たちが長生きできる状況を作
っていくことのために、まず、一
番大事な医療を充実する。良い医
療をやってくれてはいい。「今、国がみん
なやってくれてはいるではないか」
という方が大変多いです。新しい
会を作るといふところでよくそう
いう意見が出ます。しかし、これ
は永久に保障されたものではない
のです。

昭和四十六年に全腎協が結成さ
れて、国会請願などの運動をしま

して、更生医療の適用による公費
負担の導入、それから東京都での
身障医療ですとか、特殊疾病の医
療費助成、所得制限があるにせよ
ほとんどのところでやっています。
そういうことで原則として、
ほとんど費用がかからず透析にか
かれるわけですけれども、これは
予算がなくなってくればどう切ら
れるかわからない。たとえばイギ
リスでは六十五歳を超えて透析に
入る方は全額自己負担だそうで
す。福祉の進んでいるイギリスで
も財政的にそういうような状況が
出てきています。

私たちは運動をしないか くてもいけない

そういうことを考えますとやは
り私たちは運動をしていかなくて
はいけない。今の制度も守り切れ
ない恐れがあります。それからア
メリカの公的医療、メデイケア、
メデイケイドというのがあるので
すが、そこでは件数払いが取り入
れられております。メデイケアで
は疾患臓器別に四百七十ぐらいに
分けまして、こういう医療にはこ
れだけの費用ということを決めち
やっています。それ以上出

さない。そういうような方向、似たようなことで、日本では老人医療に件数払いとしてとり入れられました。透析にも取り入れられる可能性があると言われています。厚生省はやはり一つの大きな課題としているようです。「運動とは目標をもって実現するための活動である」ということですね。そこで私たちはこういう組織を作り、費用(会費)を出し、活動していくということが必要となるわけです。その中で元気な人は役員に当たっていただきぜひ、ご協力いただくといいこととやっているわけです。

病院患者会の重要性

それから目的、あるいは活動の方向というのは、東腎協と全腎協と病院患者会では多少力点が違うと思うのですね。全腎協ですと主な活動は国の政策、方針にたいしての影響、厚生省の予算獲得とかになります。東腎協はそれが主に東京都、あるいは市区町村ということになります。病院患者会は東腎協、全腎協の基礎的な組織です。基礎的な組織が強くなければ、上部組織は強くなりません。皆さん

が頑張って病院の患者会を活性化し、そして協力していただくことが大切だと思います。そして親睦、交流、旅行ですとか、やはり楽しくすごして長生きするための知恵を出し合い、経験交流をして、それで気持ち良く病院、クリニック等で透析など治療を受け、時に透析では週二、三回と一生お世話になるわけです、お互いに気持ち良く協力できる環境を作ること

国民の医療を守る運動へ

最後に患者会運動の特徴ですが、一番目に病気の自覚と科学的に知ること、やはり状態を十分知らなくてはいけないということですね。そして第二に病気とたたかい克服する気概をもつこと、もちろん病気と上手につき合うことも含みますが、そして第三に病気とたたかう条件整備、これは東腎協、全腎協でやっている本来の活動ですね。それからこういう運動も単なる要求の運動から総合対策のようにならなければならない。国民の医療、保健、こういうものに奇与するといえますか、自分たちだけ良ければいいか、自分たちが、これからの健康な人がだれが

が病院患者会の力点を置くところだと思えます。

権利としての患者運動を考えると、こういうものが根拠としてあるということ参考を書いておきました。が、あといろいろな法律、身体障害者基本法、福祉法などかがあります。そういうようなものが保障されているものもあれば、政策として運用でやっているものもあるということです。

病気になるかも知れませんが、国民運動、こういうものにしていかなくてはならないと思えます。それから特に医療について言いますと私たちは「医療」というのは節約出来な」と思うのです。だれでも病気になった場合、やっぱり「最高の医療が受けたい」、その先生が持っている最高の知識、技術、薬を使って医療を施してもらいたい。これはだれでも希望するところで、節約は出来ないと思うのです。ただ最近高度先端医療というようなことで多少差が出てきたというのが現状ですけれども、そのへんはいろいろ議論があるかもしれませんが、やはり

りだれでも同じように医療が保障されるようなことが必要ではないかというように感じます。

それと最後につけ加えたいのは「患者運動は人間関係である」ということです。組織というものは人が作っています。そして会社とか役所のように、命令で動くとかいうものではない。命令、本当に皆さんのボランティア的な気持ち、純粋な気持ちで、この運動を進めていただいているわけですから、皆さん、平等なわけですね。

会の会長とかいろいろあるにしても、対外的な分担でありまして、東腎協は平等に議論を交わして運動させていただいているつもりです。もちろんリーダーシップをとるところはとらなくてはいけないと思いますが、そういうことでや命令とかそういうことで人を引っ張ってはいけません。民主的な話し合い、それで納得していただけるような運営、本当にこれは手間がかかるし大変だと思います。各病院でやっている方、本当に大変だと思っております。人間関係を大事に作っていくということが必要なのを強調いたしまして話を終りたいと思います。

釣り

趣味のグループ紹介(3)

腎研友の会(病院名、腎研クリニック)は、東腎協の患者会の中でも活発に活動している患者会ですが、今年七月に同好の有志が集まり奥多摩に釣りに行かれたということで、早速病院に訪問取材しました。(文・東野、写真・内田)

JR山手線、高田馬場駅の真ん前にビルがあり、それが今日訪問する腎研クリニックでした。一階待合室で同じ編集委員の草間和男さん(東腎協事務局、腎研友の会会長)が透析を終わり待っていました。しばらくすると今日の主



が来たのですかー

釣りの話は去年から少し出ていたのですが、今年一月の総会終了後、主力メンバー数人で通称「腎研釣り愛好会」を、今年中に正式に発足させることを決め、釣歴二十十年の深井さんが世話人、愛好会の部長になり発足しました。

――主なメンバーは――

透析が月水金の昼間の人を中心に集まり、十人位で特にメンバーを決めていません。釣りが好きな方ならベテランは勿論、初心者も大歓迎で、患者会会員は勿論、病

院の職員さんにも釣り好きな方がいて、お誘いしています。

【現在の活動】

――奥多摩に釣りに行かれたそうですが――

「腎研釣り愛好会」の第一回の活動は、七月八日、奥多摩奥多摩町の氷川国際マス釣り場に決まりました。日曜日には新宿から奥多摩直通があり、時間も一時間二十分程度、丁度良いからです。

釣りに行かれたメンバーは――深井さんが丁寧に現地を下見をされ、原さん、草間さん、斉藤さん、内田さん御夫妻、西さん、それに世話役の深井さんで、全部で七人が参加しました。

――その時の写真がありますか――

「腎研釣り愛好会」として一冊のアルバムにまとめてあり、拝見しますとみんな楽しそうに釣りの写真をたらしめて、深井さんが釣り上げた魚を手にかけている写真もあります。それにしても多摩川の自然の雄大さは迫力があり、回りの緑の景色は目の保養にもなり、明日への活力が湧きできます。

【これからの活動】

――活動の中心人物、深井さんに――

深井さんは釣りに大変入り、透析日は千葉八千代市の勝田台の自宅に戻りますが、翌日の非透析日は、浦安の別邸(長女宅)で午後から釣りを楽しみ、翌朝透析に直行される毎日だそうです。

――次回予定は――

「腎研釣り愛好会」の活動はこれからで、第二回は今年十月に会員十人位で、出来れば女性も参加してもらい、ハゼ、アライナメが釣れる海釣りを計画しています。

――これからの予定は――

来年からは「腎研釣り愛好会」として、年に四回位は釣りを楽しみたいので、会員の中には本格的に釣りを楽しんでいる方もあり、みんなと一緒に是非参加して戴き、釣りの輪、友達の輪を広げたいと楽しく話してくれました。

取材して感じたことは、透析患者はいろんな年代、職業の方の集まりであり、趣味を持つことで普段見つけだせない大切なものに触れ合うのが、実感として分かります。今回も釣り以外の「生きている喜び」透析人生としての収穫も大変大きいと思いました。

現代 カブトムシ物語

—— 作・井上 慶典

カブトムシ

真くんは団地の小学校の一年生、毎日元気に団地の真ん中にある小学校に通っています。もうすぐ夏休みというある朝、真くんが学校に行くのと仲よしの豊くんが近付いて来て言いました。

「今日、学校が終わったらほくん家においでよ。いいものを見せてあげる」

「いいものって」

「内緒」

真くんは、いいものって何だろうと思いましたが、いろいろと考えてみましたが何だか判りません。いいものを早く見たくて学校が終わるのが待ち遠しくなりませんでした。

真くんは、家に帰るとランドセルを机の上に投げ出して、すすへへに出掛けようとして

「真、どこへ行くの。ランドセルをきちんと片付けてからにしなさい」

と、お母さんが言いました。

「はあ」

真くんは、部屋に戻ってランドセルをちゃんと片付けてから、

「お母さん、豊くん家に行つて来ます」

と言って、家を出ようしました。後ろでお母さんが、

「気を付けてね、あまり騒いではだめよ」

と言っているのが聞こえました。

豊くんの家は隣の建物の五階です。建物と建物の間の植え込みには、ヒマワリの花が真くんを見下ろすように咲いています。真くんは、豊くん家のチャイムを押ししました。

「どなたですか」

と言いながら、豊くん家のおばさんがドアを開けてくれました。

「おばさん、こんにちわ」

「あら、真くん、こんにちわ」

「豊くんいる」

「いるわよ。どうぞ、お上がんさいな」

「ありがとう」

真くんは、上手に挨拶ができました。

「いいものって」

「これだよ」

豊くんは、虫籠を持って来て見せました。

「あっ、カブトムシ」

「昨日、お父さんが買って来てくれたんだ」

「すごいな」

「すごいだろ。こいつ、力持ちなんだよ。お母ちゃんの自動車なんか引っ張っちゃうんだ」

ふたりは、カブトムシに消防車やダンブカー

いろいろなものを引かせて遊びました。

赤黒く光っているカブトムシは、まるで鉄でできているように思われました。真くんもカブトムシが欲しくなりました。家に帰った真くんは早速お母さんにおねだりしました。

「ねえ、カブトムシ買って……」

「駄目です。すぐ死なせてしまうんだから。カブトムシがかわいそうだから」

「ちゃんと餌をやるよ。だから……」

「駄目です」

お母さんは許してくれません。夜になってお父さんにもおねだりしました。

「お父さん、カブトムシを買ってよ。ぼく、欲しくてたまないんだ。豊くんのカブトムシ、すごいんだよ。ダンブカーだって新幹線だって引っぱっちゃうんだよ」

「ほう、カブトムシか。お父さんが子供のころは山にたぐさんいたもんだが」

「えっ、山に。自然に」

「そうさ、木の汁をなめているんだ。クワガタなんかと一緒にね」

「クワガタも、今もいるかな」

「そうだな、いるかもしれないな。夏休みに田舎のおばあちゃん家に行ったら美くんに連れてってもらおうかい」

「いいよ。待ちに待った夏休みです。真くんはお母さんと一緒に一足先に田舎のおばあ

やん家に行くことになりました。お父さんは仕事の都合で後から来ることになったのです。お母さんは、おみやげをたくさん入れた袋を持ち、真くんは虫籠を持ちました。

おばあちゃん家の美くんは、真くんより三つ大きい四年生です。おばあちゃんは家に着くと、真くんは早速美くんに言いました。

「カプトムシ捕りに連れてってくれる」

「いいよ。でも、今日はマコちゃんは疲れてるから明日ね」

その日は家の近くで遊びました。庭のユリの花にアゲハチョウが飛んで来たり、トンボが同じところを行ったり来たりしています。



カト・有吉 和雄

山ではセミがうるさいほど鳴いていました。畑にはナスやキュウリやトマトと一緒にスイカもありました。トウモロコシは毛が茶色になっていきます。

美くんは小川で魚を捕っていました。真くんは、もう楽しくって楽しくってずっと夏休みだったらいいなと思いました。

次の日は、美くんがカプトムシを捕りに連れていってもらう日です。真くんは美くんの後ろについていきます。畑や田んぼの縁には真くんの知らない草が花を咲かせていましたし、小さな虫がたくさんいました。

山に着いてあちこちの木を調べてみました。カプトムシはなかなか見つかりません。山は、道からそれると草がたくさん生えていて歩きにくいので真くんはとても疲れました。それでも真くんは一生懸命美くんの後について歩きました。一時も休まなかった。美くんが立ち止まって木の幹を指さして言いました。

「マコちゃん、あれを見てごらん」

真くんは、美くんが指さしたあたりを目を凝らしてよく見ました。

「あ、カプトムシだ」

そこには立派な角を持ったカプトムシがいました。カナブンも三匹いましたし、チョウチョも一匹いました。みんな木の幹をなめているのです。

ふたりが近付くとカナブンとチョウチョは逃げてしまい、カプトムシだけが残りました。

美くんがカプトムシの角を持って虫籠に入れてくれました。真くんには豊くんのカプトムシより立派で強そうに見えてとてもうれしくなりました。それからしばらく歩いてみましたがカプトムシは見つかりませんでした。

「疲れたね。おなかも空いてきたし、もうそろそろ帰ろうか」

「うん」

ふたりが家のほうに歩き出したらしばらくたつたときです。

「あ、カプトムシがっ」

真くんが叫びました。真くんは足に草を絡ませて転んでしまったのです。虫籠が壊れて、中に入れてあったカプトムシが逃げて行くのであります。真くんは急いで起き上がろうとするのですが草が絡まってなかなかうまくいきません。やっと起き上がってあちこち探してみましたが、とうとう捕まえてくれた美くんが悪いような気がしました。

「ごめんね、せつなく捕まえてくれたカプトムシを逃がしちゃって」

「うん、いいんだ。それよりマコちゃん、けがはなかったかい」

「うん、大丈夫」

家に帰ったふたりは、おばあちゃんが切ってくれたスイカをたべながら顔を見合わせてにっこり笑いました。

真くんは、親切にしてくれた美くんが前よりも好きになりました。

ななまの たより

会員の皆さんから原稿を募集しています。うれしかった事や悲しかった事、苦しかった事などの随病記、ひとり言やカセット、写真などなんでも気楽にかいて事務局へ送って下さい

グウムへ

須田クリニック

白井 次郎

孫たちが夏休みになったら皆でグウムへ行こうと、五月頃から旅行社に頼んだ。面倒なのは、透析のことだ。現地

の旅行社はその手配しないと言う。幸い院長がテレックスでグウムのメモリアルホスピタルへ連絡して下さって安心。ところが六月になってシヤントが駄目になって、東京

女子医大でオペ、それもうまく行かなくて、七月に二回もオペ、これじゃとても行けそうもないと思っていたが、院長がガンバツテ行つたら



Vサインの白井さん

しゃい〴〵言うので出かける元気が出た。八月十九日の朝八時に南ウィングへ集合、田無からでは大変なので前日の午前には透析して成田の日航ホテルに泊り、長男たちと当日合流した。

全日空は国際線に進出したばかりだからハワイへ行った時のノースウエストとはサビスが比べものにならない。さて問題は透析のことだ。

ホテルの案内に病院の都合は大丈夫かときいて貰う。市内見物のガイドは、ホテルのすぐ上の山にあるから歩いて行けますよと言うが暑いなか坂

はとでもじゃないかゴメンだ。ホテルの案内の女性は実に親切で、クルマも手配し、言葉も不自由でもしょうから、その手配もしてくれられた。

メモリアルホスピタルは、例の横井庄一さんが救出されて入院したとのこと。この島は、もとスペイン領で、現住民はチャモロ族で、この方言とアメリカでナニを言っているのかチンパンカンパンだ。

この病院もホノルルの病院と同じ様に着たまま、靴も脱がなくていい。女医さんがやってくれるが静脈の方が上手に刺せなくて三回目どうやら、然しその度に麻酔をしてくれるから痛くない。やつと終つて、お疲れサマでした。

と礼を言ったら、ナニかあつたらルーベンと呼んでね」と笑つて医局の方へ行った。

昼食の時にこの女医さんがハンバーグを食い易い様に切ってくれたし、サラダにドレッシングもかけてくれて実際に親切で頭が下つた。

透析前、問診はなかつたが(あつたとしてもトテモ話せない)触診は丁寧であつた。サテ終つて支払い厄介だつた。処置料は本院の方で払えたが透析料は本院の方で行つてくれと言つたのである。案内の服部君(二世)が嫌な顔もなしに

いでクルマを本院へ、ここでナンダカンダとやり取りがあつた。出かける時、現金で支払わない方がいいし、トラベルチェックも二度請求された例があつたのでカードの方が良いと教えられたのでカード

で支払つた。支払額は1\$百四十円として三万八千円位だつたが、服部君がよくしてくれたので30\$差上げた。

今回のグウム行の最たるものは十八年物のスコッチが半ダースも買ったことであつた。

新小岩クリニック
友の会総会に参加

東腎協会計
中田 青攻

五月十三日新小岩クリニック友の会総会に、東部ブロッツの高橋副会長の代わりに、私が、お邪魔して西尾院長はじめ、柏崎婦長、尾崎ケイス、ワーカー、そして今度、会長に成られた大沢さんはじめ、本吉さん、遠田さん、そして多くの仲間の皆さんにお会いしました。

先づ感じた事は、役員の方々が、会活動に熱心に取組み加入率も九〇%以上、また西尾先生のお話のなかで、私達患者の立場になって、色々と心遣いをして頂いていること、

なかでも最近の透析機器の進

歩に依り、除水が容易になつては、大幅な体重増加(ドライウエートの一〇%)は、自らの生命を縮める結果になる。又、カルシウム、リンとのバランスが、骨の障害を防ぐなど、大変良いお話をされ、仲間のみなさん、耳の痛い方も居たのではないでしようか。私もこの話を聞いて、少々驚きました。

西尾先生が言われているように如何に優しかったのか、今度は仲間の皆さんが自己管理を徹底して、職員の間にも余り負担を掛けないようにして欲しいものです。現在新しい病院(五階建)を建築中で、仲間の皆さんの要望も取り入れ立派な明るい病院が、平成三年三月に完成とのことです。

私、仲間の皆さんに東腎協の立場、私の考えを含め、①最近の透析人口と医療費との関係、②患者会運動の歴史と運動の必要性、③全腎協会費の引き上げについての説明と東腎協の対応、④東腎協交流会などの催しに積極的に参

加をお願いして、午後の常任幹事会に向かいました。

大渋滞

大山中央腎友会
谷地 武廣

東腎協区北部ブロック「那須茶臼岳・湯本温泉」日帰りバス旅行

私は六時四十五分にゲーム用、票品を車に積み込み、高田さん(大山中央腎友会)の家に寄り、彼と池袋に行きますと、七時十五分には五十六名全員集合しており、天気も良く皆さん張り切つて出発を待つて居たようです。

七時三十分予定通り出発、処が首都高速、東北自動車道とも渋滞、バスの中では泉山会長さんの心のこもつた景品付きゲームで渋滞も忘れられても楽しそうでした。那須岳ロープウェイに十時三十分に着予定でしたが、何時に着くか見当つかず、参加者の皆さんで相談した結果、那須岳ロープウェイを断念し、ぶどう刈りに決まりビューホテルに向

かったのですが、ホテルに着いたのは何と十二時半、池袋から五時間私達帯任幹事三人と会員四名は補助席、往復補助席は辛かった。

ビューホテルは高台にあり眺めのいいとても設備のととのつたホテルであった。食事も金額にしては良かった。一時間半の休憩にしては結構、お風呂、買い物と楽しい一時でした。

ホテルから山一ぶどう園と出発したので繋がりが取れずバス会社の方がいろいろ当つて見てくれたようですが、これもまた断念。私たちが実行委員は「時間が有ればぶどう刈りをしましょう」との事でしたからぶどう園を予約していませんでした。参加者の皆さんには申し分ありませんでした。

りんご園があるとの情報聞いて予約し、もぎ取りは出来なかつたけれど何とか手みやげは買えました。何とか皆さん満足したようです。

しかし参加者の中にはいらしてはい方もいたようでした。池袋に着いたのは八時三

十分。私の田舎は岩手で時々東北道を利用するのは渋滞ははじめてです。参加者の皆さんもあれほどの大渋滞ではご理解いただけたいと思います。

旅にはハブニングがつきものですが、私にしても忘れられない日帰りバスハイクとなりました。私も実行委員の一人でしたがいろいろな面で反省しております。

秋は来たりぬ

東海病院ひまわり会
桃木 幸男

夏去りぬ病室の窓から虫の声雨止めし夜の小さいき風に流がれゆく雲の白さも紅葉の色に映えはえて去りてゆく

秋雨にぬれしケヤキの葉一枚しづくゆれぬ風秋深まりて此の頃は五時になれば暗らき道足音きしむ落ち葉重なりて汗かきて働く喜びに声かけぬ老婆の姿に秋風さわやかにまた来ると言葉林びしく君は言う雨降る夜の赤かき笠ゆれ

変わりない問えるナースのぬれまつげ心よぎりし初恋の女性
イヤリング付けしナースの横顔に紅かき花弁咲くが如とき目で追いつ煙草の煙りわびしげに流がれる匂いは外に消えゆく

短歌

調布病院腎友会

武内千代子

言らずも通じ合いたる年月をいたわり生きる友白髪の方病みし妻友に生きるは運命なりとあきらめ多き夫に感謝す病いもて苦しみ日々を送りしもたつた一度の生れ来しものかぎりある我が人生の生きの目をくゆくこなくポランテイアに行く

透析の十年間の生きの日は他人の痛みと耐えるを知れり死にたくて死ぬ人々よ病にて生きたくて死ぬ無念わかるまじ
先達の死をのり越えて今日を生き高麗医療を案ずることなく

信州のさわやかな風の中で

第4回関東ブロック青年交流会開く

次期世代を担う若者

たち

上野のぼす会 村田 茂

青年交流会は初めは、全関東関東ブロックの会活動レベ
ル向上を目的とする学習や研
修が主体で始められました。
徐々に次期世代を担う若手会
員を育成する交流会に変わっ
てきました。今回で四回目とな
る青年交流会は、平成二年八
月二十五日・二十六日長野県
佐久の蓼科、女神湖畔で行な
われました。

私は初めての参加で東腎協
からは、七名の参加となり、
上野発十二時の浅間十七号で
一路小諸駅へ向い、十四時
十分着、迎えに来ていたマイ
クロボスで国民宿舎の蓼泉園
へと車を走らせました。三時
過ぎに着き宿の二階に長野県
腎協の受付があり名札を貰
い、名前を書き、部屋に入り
ました。その時は、気が付か

なかったのですが男性と女性
と同じ番号が付いていたので
す。大広間に三時三十分頃集
まり各テーブルに別れて同じ
番号の異性と組み相手の紹介
をしました。千葉県の方で優
しそうでとても気に入りました。
もし良かったら友達にな
ってほしいかな……。

その後各テーブルで交流会
が行なわれました。夕食後宿
の裏庭でキャンブファイヤー
で、歌ありホークダンス・花
火ありで楽しくて、あつとい
う間の二時間でした。翌日九
時から四コースに別れて屋外
交流会。私は、Aコース四km
〜五kmのハイキングに挑戦、
女性五名を含む十二名の参加
となり、御泉水自然公園を二
時間三十分歩き回り、足が痛
くなる程でした。でもとても
良い思い出が出来たと思っ
ています。一時に解散となり無
事日程が終了しました。最後に、
長野県腎協の皆様ありがとうございました。

ございました。また、逢う日
を楽しみにしています。参加
者は六十二名でした。

仲間作りを積極的に

希望会 軽部 和之

六十名以上の方が参加さ
れ、主催された長野県の方々の
準備と運営により盛大な交
交流会となりました。私は初め
て参加し、その中で感じた事
を一つ述べたいと思います。



それは、今更ながら、透析
をしている若い人が多いとい
う事。しかし、会に参加して
いる人は、個々に色々な苦勞
や心配があったりも、割合元氣
で恵まれている少数の人達で
はないでしょうか。

このような交流会などに参
加したくても地理的条件や、
日数などで参加できない人達
が多数いるのではないでしょ
うか。そこでやはり各都県単
位で、青年部等の仲間作りを
積極的にに行い、できるだけ大
勢の人達が交流できる場を数
多く設ける事が必要と思われ
ます。そこには、同じ様
な悩み、心配事を互いに
話せる場もでき、自ずと
異性との交流も生まれ、
男女とも家庭を持ちたい
という切実な問題も解決
されるかもしれません。

各病院では、一人か二人の若い人も、各都県単
位になれば、かなりの人数
になります。皆さんで
集まれば、もっといい事
が生まれます。
今よりもっともっと。

楽しかった青年交流会

徳田病院(神奈川)

阿部 充子

私は東京で透析をしている
友達に誘われて、青年交流会
に、参加しました。

初めは、全腎協の交流会と
聞いて、きつと堅い話しを聞
いたり、病氣のことを勉強し
たりと、堅いイメージをもっ
ていました。しかし、それは
違っていて、初めに思ってい
たよりも、ずっと楽しい交流
会でした。私達の泊まった蓼
泉園は、女神湖のそばで、
とても景色の良い所でした。
大広間で自己紹介をしたあ
と、楽しくおしゃべりをし、
夕食後には、「キャンブファイ
ヤー」をしました。火花や
フォークダンスをし、各県ご
とに歌も披露しました。夜は
遅くまで話しをしたり、ゲー
ムなどをしました。

私は、病氣をしてから、初
めての泊まりがけの旅行でし
たが、とても楽しかったのだ
が、とても泊まりがけで、旅行を
したいと思っています。

多くの女性が参加

中野クリニック腎友会

村井 靖治

今回、初めてこの青年交流会に誘われ参加することになった私は、当初、どうせ四十年前後の良識ある人たちが集まり、まじめに透析医療について意見を交わしたり、昔の不幸ばなしや未来の不安、現状の不満などを愚痴る、暗くつまらない集会だろうと思っ
ていました。

しかし、予想に反して最初
の三時間余りのおきまりのデ
イスカッション以外は、二十
代、三十代が中心できれいな
女性も多く(深夜、男だけの
話し合いの時、東腎協のK氏
は、今回参加している女の予
は、レベルが高いと、笑みを
浮かべながら話してくれまし
た。)

一日目の深夜及ぶカード
ゲーム、二日目のパターゴルフ、ゴーカーなど、信州の
澄んだ空気とさわやかな風の中
で、一泊とはいえず、とても
楽しい時を過ごすことができ



ました。

長野県腎協の細やかな配
りとし、ご苦労を、感謝すると
ともに、来年もまた機会があ
れば、ぜひこの交流会に参加
したいと思っています。

青年交流会は大切な

運動の一つ

個人会員 佐藤 安行

蓼科高原で行なわれた「関
東ブロック青年交流会」に参
加させていただきました。

私は全腎協の事務局員です
から、会報「全腎協」の取材
などで何度か各地の青年交流
会に参加させていただいてい
ますが、今回、まず最初に驚

いたのは、若い人が多いとい
うことでした。

青年交流会なので、若い方
が多いのは当然と思いつつ各
地の会合に出席させていただ
くのですが、十数年前の青
年が若々しく交流している姿
の方が目立つという状況が多
いような気がしていました。

やはり、透析患者の高齢化の
反映なのでしょう。
今回は関東各地から真の青
年が多数参加しており、自己
紹介、自由交流、グループ別
交流会と多彩な催しの中で、青
年交流会として有意義な集会
だったと思います。

さて、「近頃の若いものは」
という言葉に代表されるよう
に現代の若者は、よく中堅以
上の方々にとって嘆きの対象
になるようです。透析患者の
若者も然りのように思われま
す。ところが、今回、集まっ
た人たちはなかなかどうし
て、「仕事はどんなことがあ
っても続けたい」、「結婚は
……」、「生き甲斐……」と、
自分の将来をしっかりとした
展望を持っていると感じまし

た。

各地の青年透析患者が一室
に会し、多くの経験を同じ立
場で交流し、深める機会はや
はり、患者会の力を借りなけ
ればできないことです。患者
同志の交流を深め、自らの置
かれている療養条件を改善す

青年部の今後

青年部長 金子 智

青年交流会は大変楽しい集
会だったと思います。過去に
もいろいろな集会に参加しま
したが、楽しいと感じる機会
が少なかったように思います
。集会の中でも「楽しくな
ければ参加はしたくない」、「難
しい話はきらい」などの意見
が少なくありませんでした。

長年患者運動を続けてこら
れた役員の方が聞かれると、
気を悪くされる方が多いと思
います。一つには、長年の運
動の成果で、透析技術の向上、
医療費の負担軽減などで、安
心して透析が受けられるよう
になったからだと思います。
しかし、今後の患者運動を

る行動への第一歩としても、
この青年交流会は大切な運動
のひとつだと確信していま
す。

最後に長野県腎協の皆さ
ん、楽しい二日間を企画して
いただき、本当にありがとうございます。

考えると、若い人の参加につ
いては、決してさけて通れな
い問題だと思えます。青年
部としても、もっと積極的に
活動をしていかなければと思
います。

最初は、あまり型にこだわ
らず、若い人が多く参加して
もらえるような企画を考えて
行きたいと思っています。その中
で、時間をかけてでも少しずつ
東腎協・全腎協の活動を理
解もらい、できればその中か
ら役員になっていただける人
が出てくればと考えていま
す。

また、他県の青年部とも交
流を進めて行きたいと思いま
すのでよろしくお願ひ致しま
す。

事務局から

署名募金運動に協力を

八月には大変暑いなか、有料道路料金割引の内部障害者等への適用拡大の署名運動にご協力くださいましてありがとうございます。会員の皆様のご協力により一

腎臓病を考える都民の集い

- 日時 11月25日(日)午後0時30分～4時
 ○会場 住友ホール(住友ビル地下1階)
 ○講演
 「腎臓病のはなし」長沢俊彦(杏林大学教授)
 「健康と食生活」佐藤妙子
 (国立病院医療センター・栄養管理室長)
 「私の健康法」後藤美代子(大正大学講師)

〇、七四三人の署名が集まりました。また、十月からは全腎協、JPCの国会請願署名募金運動が行われています。この国会請願運動などで過去に人工透析医療費公費負担、小中学生の検尿の義務化など、いろいろな施策を実現してきました。

カンパについてQ&A

Q カンパはどのように使われていますか

A 皆様から集められたカンパは病院患者会で四十%をとり六十%を東腎協に納入していただいております。各患者会では腎疾患総合対策を実現するための会の活動など、いろいろな方法が使われています。東腎協に納入されたカンパは募金配分により全腎協、JPCに納入し、残金(昨年度約一八八万円)を特別会計に計上し、腎臓病を考える都民の集い、腎移植推進キャンペーンなどの腎疾患総合対策を実現するための行事、行動などに使われています。全腎協、JPCでは国会請願要請集会への全国の参加者の旅費、署名用紙の印刷などに当てています。

Q カンパは強制ですか

A カンパについては会員の皆様が集められる範囲で納入してもらうことになっており、強制ではありません。しかし、要請実現のためできるだけ多くの皆様のご理解、ご協力をいただくようお願いしております。

全腎協アルバイト募集

全腎協事務局またはJPCで働いてくださる方を募集しています。勤務時間はご相談に応じます。

募集人員

二人程度
 勤務時間 十時～五時
 発送、印刷など定形的業務のほか、会報編集に興味ある方を歓迎

賃金

時給Ⅱ仕事内容に応じて六三〇円から七五〇円まで
 (来期値上げ予定)

全腎協20周年記念事業

へのご協力を

☆会員作品展(募集作品) 絵画、彫刻、陶芸、写真、書、その他
 出展申込み締切日
 1999年3月31日

☆カンパのお願い

新入会員紹介

全腎協結成二十周年記念事業を成功させるために、全腎協では「記念事業推進委員会」を発足させ準備をすすめています。
 *詳しくは東腎協事務局へ

よろしく
 本山淑子、水野吉子、水尾めぐみ、大木光子、及川充、星光、朝比奈法光、石岡和子、安斉和栄、丸太トシ、斎藤孝子、武田洋子、久保田由美子、小林喜美恵、宮城広一、片山博、広瀬セイ
 聖蹟さくら会(28人)
 〒206 多摩市関戸4-4-10
 桜ヶ丘東山クリニック内
 阿万内科腎友会(21人)
 〒171 豊島区目白2-16-123
 第2野萩ビル4F
 阿万内科クリニック内

〈編集後記〉

東腎協の事務所が十月五日、テレビに出た。ずいぶんりっぱな事務所だった。テレビ写りが良いよう。実際は狭い中で発送などぶつかりあってやっていた。腎バンクの登録を呼びかける番組であったが、登録者拡大を望む。(草間)